ARCHITECTURE & WORLD

天空書庫 SKYARCHIVE

建築と世界観の図解仕様書 Ver.2.0

部位を分けて、
形と仕様を揃える。

3つの主要棟、回廊、中庭、橋、浮島。部位ごとの専用図と短い仕様を対応させ、同じ世界観で制作するための資料。



承認済み画像の部位を拡大して示す。図解のために建築を再生成せず、配置や空気感を変えない。

承認デザイン v1.0 を保持

本書は資料形式を再構成したもの。新しいデザイン案ではない。原本5画像は巻末に掲載する。

READING GUIDE

図と文章の読み方

図番号は部位の説明、SKY番号は承認原本の照合に使う。

基本の構成

高山の山頂より少し上に浮いて見える岩島に、和風の学術書庫をまとめる。主要屋根3つと低い回廊で中庭を囲い、正面から橋を1本張り出す。

方向の基準

橋の先端から建物へ向かって見た左右を、建築の左右とする。橋側が正面、その反対が奥。画面の左右とは区別する。

図の種類

部位の図は承認原本の拡大表示。配置と背景の図は関係を説明する模式図。どちらも施工図や測定図ではない。承認PNG原本は変更していない。

掲載順

03	全体の4画角
04-10	配置・棟・屋根・壁・橋・浮島
11-14	中庭・石組み・砂紋・植栽
15-18	背景・光・素材・画角
19	制作照合と未確定事項
20-24	採用原画5点

優先するのは承認済みの配置と意匠。寸法・階数・接合部など、画像だけで決まらない項目は実装時に分けて確認する。

OVERVIEW

全体の4画角

橋を正面の基準にし、カメラが変わっても同じ配置として扱う。



正面 SKY-01



俯瞰 SKY-02



側面 SKY-03



背面 SKY-04

A-01

建築の配置と構成

橋の側を正面とし、3つの主要棟と回廊で中庭を囲う。

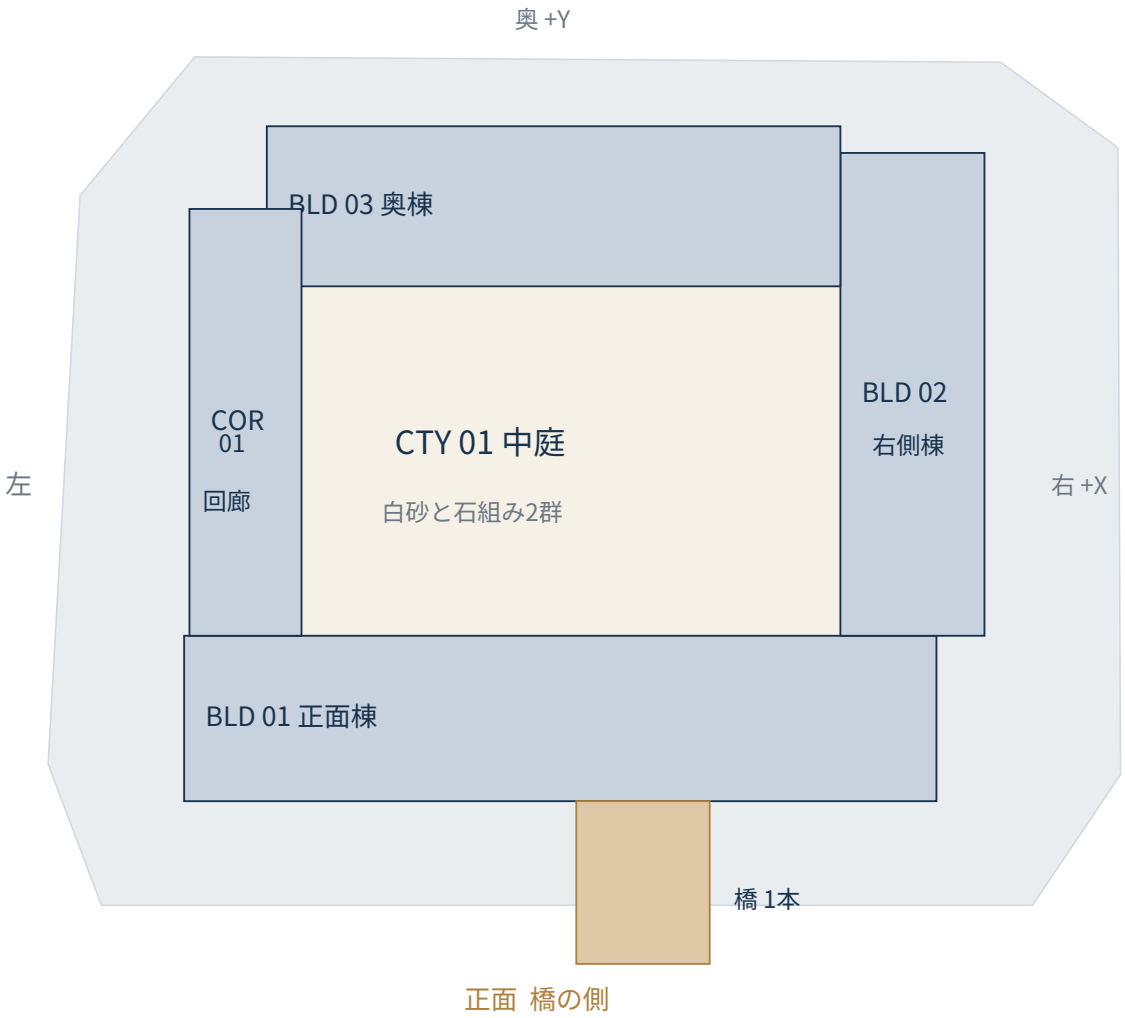


図 A-01 / 対応仕様

向き

橋から建物へ向かって見た左右を基準とする。図の下が正面、上が奥、右が建築の右。

主要3棟

横長の正面棟、右の奥行き方向の棟、奥の横長棟で庭の3辺を構成する。低い回廊が左側を閉じる。

固定する関係

橋は正面側に1本。庭は棟の内側、外周の石敷きと植栽は棟の外側。棟や橋を増やさない。

配置の関係を示す模式図。矩形は部位の識別用で、輪郭・幅・実測寸法・接合形状の指定ではない。

A-02

正面棟と縁側

横長の主屋根と、橋へつながる前縁をつくる。



図 A-02 / 対応仕様

屋根と量塊

中庭の手前側を占める横長の棟。左右に広い瓦屋根と深い軒で、建築全体の正面をつくる。

軒下

木の柱と壁、明るい障子、外へ開いた縁側を層として見せる。手すりの水平線を保つ。

他の棟との関係

奥棟は屋根の向こうに重なり、右側棟は奥行き方向へ伸びる。正面棟を門だけに置換しない。

SKY-01の正面棟を拡大。開口数、柱間寸法、屋根勾配は数値として未確定。

A-03

奥棟と側方の重なり

見える順序は変わっても、棟を別の場所へ動かさない。



図 A-03 / 対応仕様

奥側の外観

背面からは奥側の棟が手前に見える。瓦屋根、明かりのある木壁、軒下の小さな屋根を重ねる。

接続

棟の間に低い接続部分を残す。主要3棟と回廊の役割を保ち、新しい同格の棟を増やさない。

遮蔽

正面側の橋は建物の向こうへ回り、一部が隠れる。見せるために橋を背面側へ移動しない。

SKY-04の建築部。低い屋根と各棟の厳密な接合、床高・階数は未確定。別紙の整合確認を要する。

A-04

瓦屋根と軒

青い瓦列、穏やかな輪郭、厚みのある軒を揃える。



図 A-04 / 対応仕様

形

長い棟から複数の傾斜面が下がる。軒先の反りと棟端の装飾は控えめ。深い軒が壁に影を落とす。

瓦

濃い青から藍色の瓦を規則的な列で描く。細部は明確にしながら、白い線で過度に強調しない。

固定

主要屋根3つの量塊と高低差を保持。巨大な一枚屋根、多重の楼閣、尖塔に変えない。

SKY-01の屋根を拡大。瓦の枚数、棟高、勾配、構法は製造・施工仕様として定めていない。

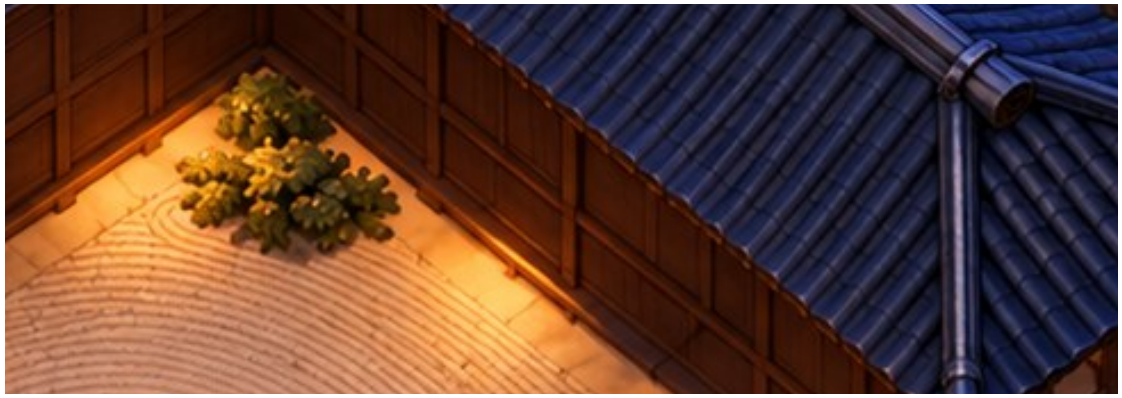
A-05

外向きの開口と中庭の壁

明かりのある外壁と、無窓の中庭側木壁を区別する。



外向きの格子窓・障子



中庭側の木パネル面

図 A-05 / 対応仕様

外向きの面

濃い木の柱・框に、格子窓と障子の光を組み合わせる。光の中でも格子を読めるようにする。

中庭側の面

奥棟と回廊の無窓部分は連続した木のパネル面。明るい窓列、追加の階段や縁側を作らない。

運用

外壁にある窓列を、他の面へ自動的に展開しない。対象画角の原本に従って面を描き分ける。

上はSKY-01、下はSKY-05の拡大。開口枚数や建具寸法の固定値を新設しない。

A-06

木の橋

細長い床、両側の手すり、暖かな灯りを1本の橋にまとめる。



01 床板と手すり　　02 建物側の段差　　03 支持材

図 A-06 / 対応仕様

01 床板と手すり

細長い木の床板と両側の手すり。要所に暖色の灯具を置き、橋の下には支持材を見せる。

02 建物側の段差

島から正面側へ直線的に張り出す。建物側では短い段差を介して縁側付近へ接続する。

03 支持材と固定

橋下の支持材を残す。橋は1本。反対岸は承認画に見えないため、新しい陸地、門、島を橋先へ追加しない。

SKY-01の橋を拡大掲載。橋の実長、幅、支持材の本数や構造安全性を定める図ではない。

A-07

岩島と外周の境界

平らな上面と粗い岩の側面、霧へ溶ける下端を分ける。



図 A-07 / 対応仕様

輪郭

島は1つのまとまり。建築を載せる上面と、青灰色の粗い岩肌、下方へ不均一に尖る下面で構成する。

上縁

建物と断崖の間に石敷き、岩、低木、小ぶりな樹木を置く。植栽で主屋根の輪郭を隠しすぎない。

下縁

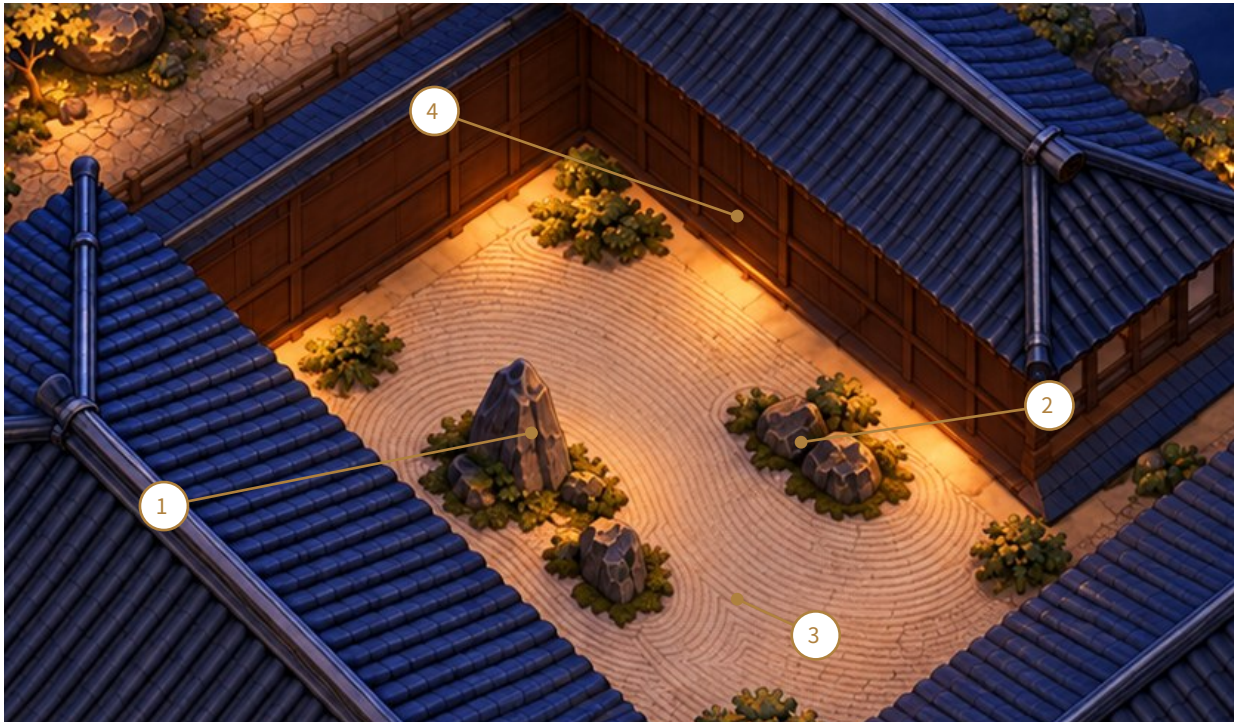
岩の下端を薄い霧へ徐々に溶かす。単なる滑らかな円盤や球、地面へ固定された構造にしない。

SKY-03の岩島。岩の個数、島の厚さ、下面の正確な形状は実測値として未確定。

G-01

中庭の枯山水

内壁に囲まれた広い白砂面に、非対称な石組みを配する。



01 主石群　02 低い石群　03 砂紋と余白　04 無窓の木壁

図 G-01 / 対応仕様

03 庭の範囲

既存の内壁に囲まれた広い庭を使う。小さな楕円の砂場へ縮小せず、砂の余白を残す。

01・02 石組み

主な石組みは2群。立石を核とする群と背の低い群を離して置き、高さと量に差をつける。

04 境界

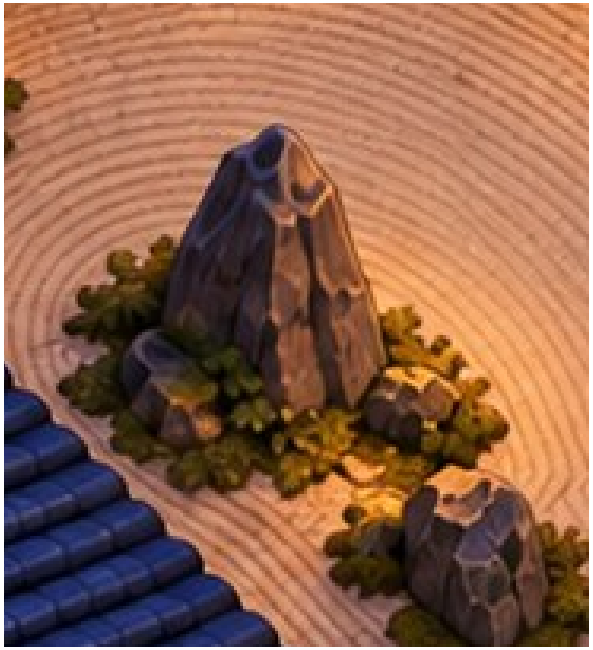
中庭向きの無窓の木壁を保持する。窓列、追加の階段や縁側を庭側へ作らない。

SKY-05の中庭を拡大掲載。石の正確な個数・配置座標・庭の実寸は未確定。

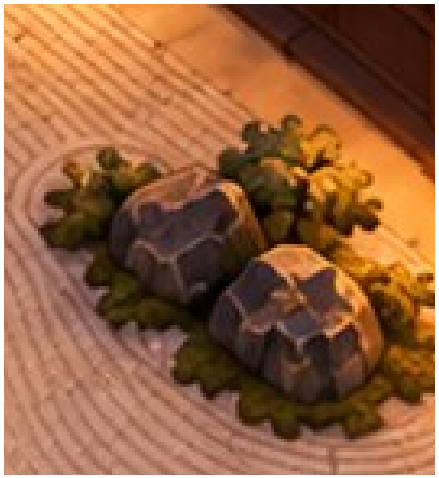
G-02

2群の石組み

高い立石の群と、背の低い石の群に強弱をつける。



主石群 立石と添え石



対の群 背の低い粗石

石の足元に苔を添え、群の間に砂の余白を残す。単独に見える添え石も含め、主な構成は2群として扱う。

図 G-02 / 対応仕様

主石群

細長い立石を核に、足元の低い石と添え石を組み合わせる。角張った面と自然な稜線を描く。

低い石群

離れた位置に背の低い粗石をまとめる。主石群と高さ・量の差をつけ、左右対称にしない。

固定

均一な丸石3個に置換しない。石の正確な個数より、2群の強弱と離れ方、苔のまとまりを保持する。

いずれもSKY-05の詳細。左右の図は部位を見せる別々の拡大で、同一縮尺ではない。

G-03

白砂と砂紋と苔

細い流れをつなぎ、砂の余白を広く保つ。



図 G-03 / 対応仕様

砂面

明るい灰白色を基調とする。夜の暖かな照明で生成りにも見えるが、水面や舗装に変えない。

砂紋

細く密度の揃った線を広く連続させ、石の周囲で緩く曲げる。太い溝や記号的な渦にしない。

苔

石の根元に低く不規則な緑の面を置く。砂面全体を芝生にせず、砂・石・苔の質感を区別する。

SKY-05の砂紋と苔を拡大。砂紋一本ごとの軌跡や反復パターンを数値固定する図ではない。

G-04

外周の石敷きと植栽

小ぶりな樹形と自然石で、建築と岩島の境界を整える。



図 G-04 / 対応仕様

石敷き

建物の外側に不規則な石のつながりを残す。均一な格子舗装や広い都市道路へ置換しない。

植栽

幹の見える小ぶりな樹木と低木を混ぜる。落ち着いた暗緑色を基本とし、灯りに近い葉だけ暖める。

範囲

植栽は外周と控えめな壁際。中庭中央の石組みを隠さず、島を密林や花畑へ変えない。

SKY-01の外周。樹種、植栽本数、石の個数は未確定。自然なまとまりを優先する。

E-01

空と山と薄い霧

山頂より少し上に浮いて見える距離感を、控えめな背景で示す。



夜空	濃紺の静かな余白
建築と岩島	硬い輪郭と局所的な灯り
薄い霧	島の下縁を部分的にかすめる
遠い山影	弱い稜線として奥に置く

レイヤーの役割を示す図 高度・縮尺の指定ではない

図 E-01 / 対応仕様

高さ

高山の山頂より少し上に浮いて見える。近接した大山塊や濃い山脈で建物を囲まない。実測高度は未指定。

霧

青灰色の薄い半透明の層が静かに流れる。白い積雲の床や、輪郭を消す濃い白煙へ変えない。

山と月

山は遠景の弱い稜線。正面には淡い満月が見えるが、すべての画角へ同じ位置の月を貼り付けない。

上はSKY-01。下は空間要素の役割を整理した説明図。各要素の実空間座標は未確定。

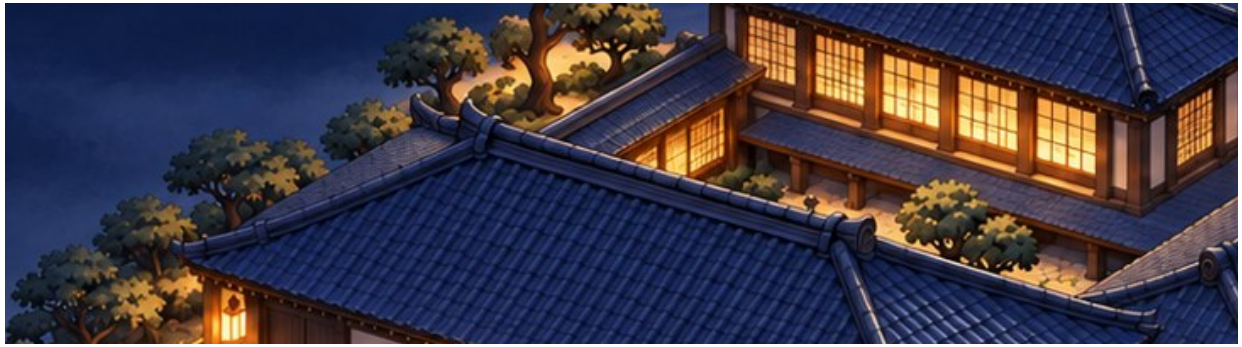
E-02

暖かな内光と青い夜

光は窓と灯具に集め、空と屋根の落ち着きを残す。



暖色 障子・木・橋・灯具



寒色 瓦・空気・影

図 E-02 / 対応仕様

発光面

障子や格子窓、橋・軒下の灯具は暖かな琥珀色。格子を白く焼き切らず、面と枠を読ませる。

照り返し

近くの木、石敷き、砂を柔らかく暖める。建物全体や夜空をオレンジ色に染めない。

配色の関係

空・瓦・霧・岩の影は寒色側。暖色は局所的に置く。強い発光や高彩度を画面全体に広げない。

SKY-01の明暗部を比較。色温度、照度、露出値、正確な光源座標は未確定。

M-01

素材と配色の対応

色名と使う面を揃える。数値のない色を、新たな固定コードにしない。



青い瓦

屋根・棟・軒



褐色の木

柱・壁・縁側・橋



灰白から生成り

中庭の白砂



青灰色の岩

島の側面・下面



落ち着いた暗緑

苔・低木・樹冠

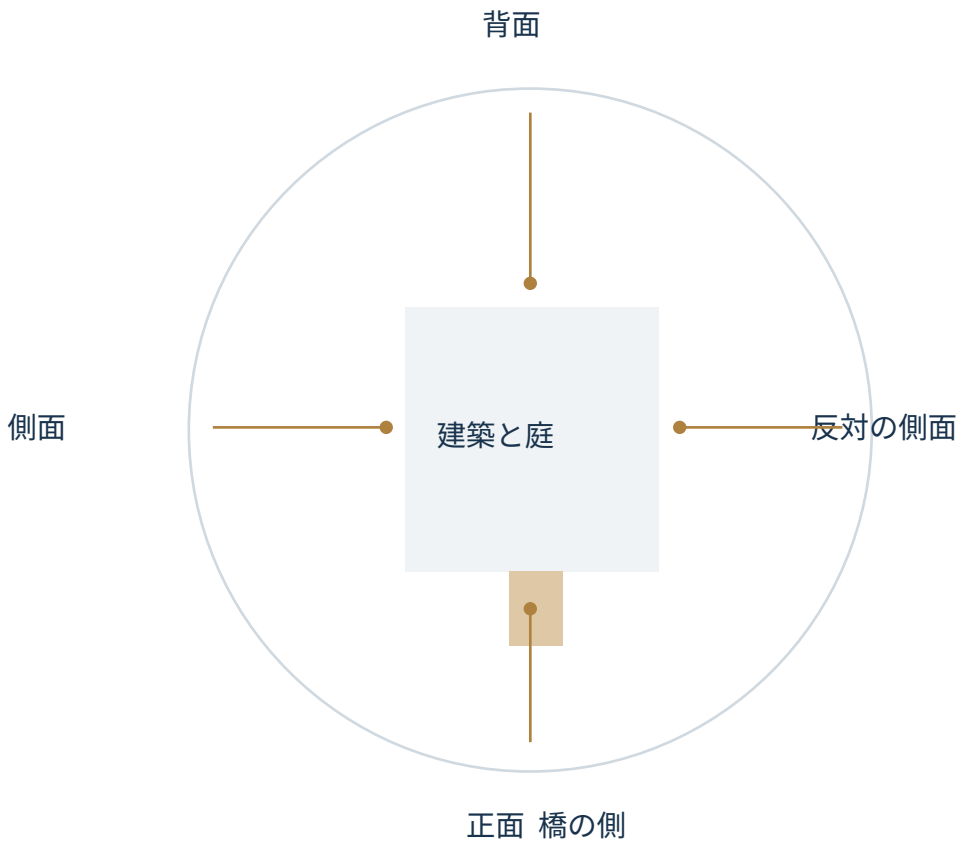
瓦は規則的な列、木は框と面、岩は不均一な割れ、砂は細い流れ、苔は低い柔らかな面で描き分ける。成熟した端正なイラスト表現を保ち、素材を一様な3D材質や太い輪郭線で処理しない。

図は承認原本の素材部分を拡大した見本。夜景の光と影が含まれるため、素材の平面色そのものではない。HEX値、塗料品番、反射率、正確な色温度は未測定・未確定。人物の衣装資料の配色コードは転用しない。

V-01

方向と遮蔽の一貫性

カメラを動かす。建物や装飾を、見せるために動かさない。



俯瞰は上方から、中庭の詳細は上方から寄って見る。左右側面を鏡像で代用しない。

図 V-01 / 対応仕様

変えてよいこと

カメラの向き・高さ・距離、画面比率、用途に応じた余白や切り取り。庭の詳細では周辺屋根が画面外でもよい。

保持すること

棟・回廊・庭・橋の位置関係。遮蔽で隠れた要素を手前へ移動したり、見える面へ複製したりしない。

未確定

正確な焦点距離、投影方式、カメラ座標は未指定。新規3D化で屋根や階の整合が必要なら別途確認する。

見る方向の関係だけを示す模式図。左右の側面図が両方承認済みであるという意味ではない。

PRODUCTION CHECK

制作時に照合すること

画像・映像・3Dへ渡す、変更を避けるための共通確認。

01 建築

主要屋根3つと低い回廊、中庭、橋1本、岩島1つ。左右は橋側から建物へ向く基準。

02 中庭

広い白砂、細い砂紋、立石側と低い石群の非対称な2群、足元の苔。無窓木壁を保持。

03 空気と光

山頂より少し上に浮く。弱い遠景の山影、薄い流れる霧、青い夜、局所的な琥珀色の灯り。

04 描画

瓦・木・岩・砂・苔を描き分け、端正で成熟したイラストに統一。粗い3Dや幼い漫画調へ変えない。

05 変更管理

依頼箇所のみを別案で修正。対象ID、変更点、保持点、承認日を記録。承認までは原本を上書きしない。

未確定：実寸、床高・階数、屋根の厳密な接合、開口・灯具・岩・樹木の正確な数、石の配置座標、色コード。元3Dやサイトを承認イラストより優先して外観を変更しない。図解だけで厳密な3D整合性や出力の自動一致は保証されない。

REFERENCE 01

採用原画 正面

SKY-01 | 承認済みデザイン v1.0 | 全体照合用



原本の画面全体を掲載。縦横比を保持し、追加の切り取りや意匠変更は行っていない。

REFERENCE 02

採用原画 俯瞰

SKY-02 | 承認済みデザイン v1.0 | 全体照合用



原本の画面全体を掲載。縦横比を保持し、追加の切り取りや意匠変更は行っていない。

REFERENCE 03

採用原画 側面

SKY-03 | 承認済みデザイン v1.0 | 全体照合用



原本の画面全体を掲載。縦横比を保持し、追加の切り取りや意匠変更は行っていない。

REFERENCE 04

採用原画 背面

SKY-04 | 承認済みデザイン v1.0 | 全体照合用



原本の画面全体を掲載。縦横比を保持し、追加の切り取りや意匠変更は行っていない。

REFERENCE 05

採用原画 中庭

SKY-05 | 承認済みデザイン v1.0 | 全体照合用



原本の画面全体を掲載。縦横比を保持し、追加の切り取りや意匠変更は行っていない。